

2014年11月14日

2015年3月期 第2四半期 決算説明会資料



新田ゼロイチ株式会社

1. 事業概要
2. 2015年3月期第2四半期実績
3. 2015年3月期見通し
4. トピックス

〈ご案内〉

本資料に記載された見解、見通し、ならびに予測等は、資料作成時点での弊社の判断であります。その情報の正確性を保障するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。ご承知おきのほど、お願い申し上げます。

1. 事業概要

会社概要

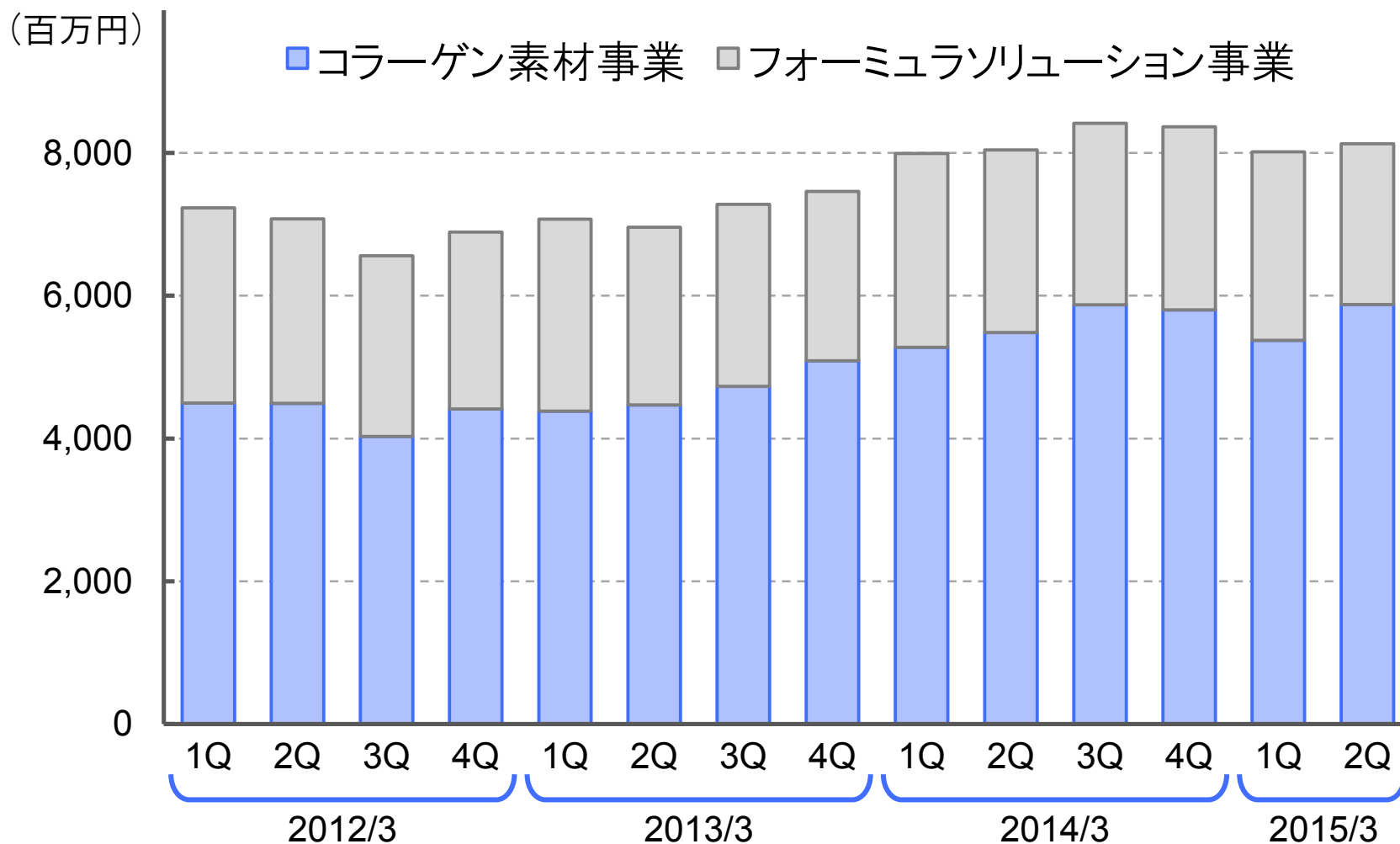
会社名	新田ゼラチン株式会社 (Nitta Gelatin Inc.)
代表者	代表取締役社長 曾我 憲道 (そが のりみち)
本社	大阪市浪速区桜川4丁目4番26号
創業	1918年(大正7年)1月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード 4977)
資本金	3,144百万円
連結売上高	328億円 (2014年3月期)
連結従業員数	635名 (2014年3月末現在)

事業セグメント・部門と主要製品

事業セグメント	部門	製品	用途
コラーゲン 素材事業	ゼラチン	食品用	グミやマッシュマロ等の製菓、各種食品、コンビニ惣菜、冷凍食品等
		カプセル用	ハード・ソフトカプセル、ミニカプセル等
		写真用	カラーフィルム、レントゲンフィルム、 印画紙等
	ペプチド	コラーゲンペプチド	栄養補助食品、サプリメント、 機能性栄養食品等
	ケーシング	コラーゲンケーシング	ソーセージ、フランクフルト、スナック、 サラミ等
	ライフ サイエンス	コラーゲン、ゼラチン	組織培養用研究試薬、人工皮膚、 人工骨、DDS、細胞移植等
フォーミュラ ソリューション 事業	食品材料	食用ゲル化剤 各種品質安定剤	デザートゼリー、総菜、畜肉製品等
	接着剤	シーリング材(高機能樹脂)	スマートホン、携帯電話、タブレット、 デジタルカメラ等
		ホットメルト形接着剤	包装、製本、建材、衛生材料等
		にかわ系接着剤	製本、紙器、紙工等

2. 2015年3月期第2四半期実績

業績推移 ①: 売上高 (四半期毎)



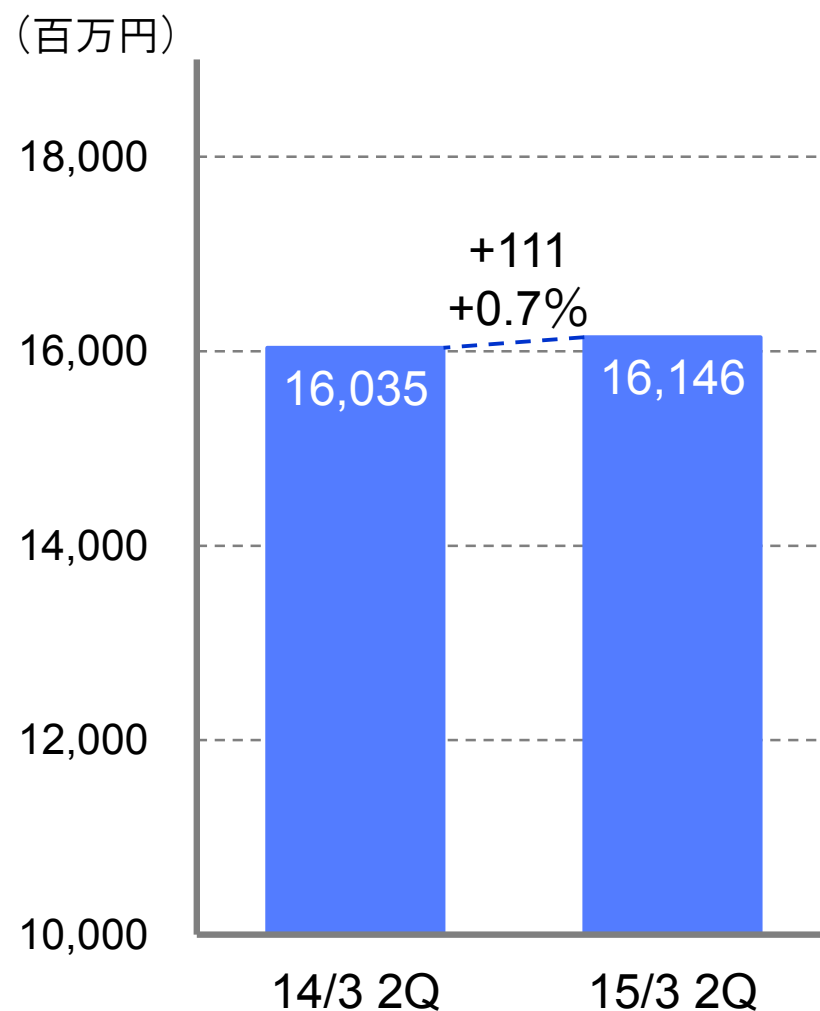
業績推移 ①: 売上高

売上高: 16,146百万円

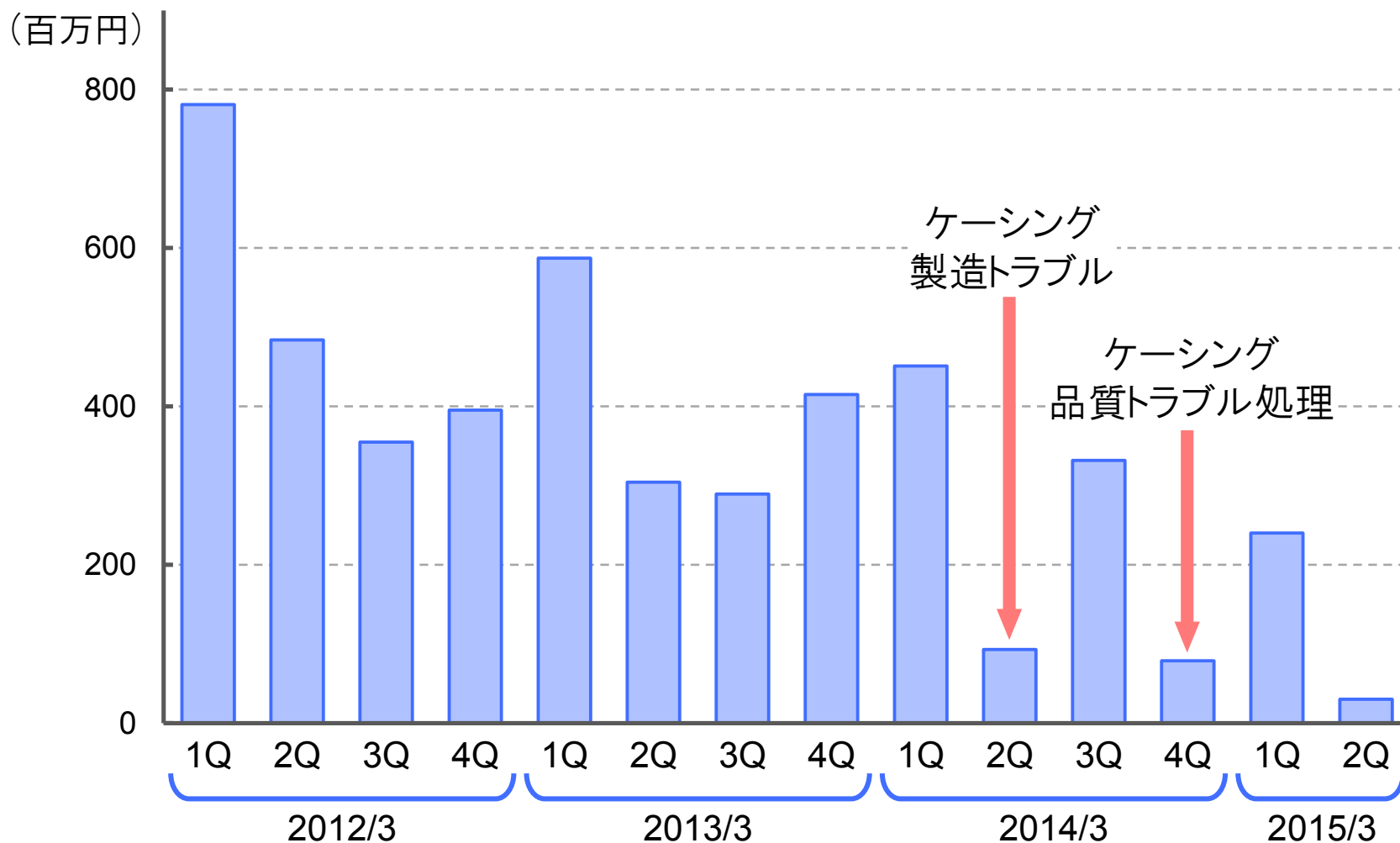
前年比: +111百万円
+0.7%

予想比: Δ 1,853百万円
 Δ 10.3%

- 販売価格改定実施遅れ
- 消費税増税の駆け込み需要反動
- 天候不順による需要低迷



業績推移 ②: 営業利益 (四半期毎)



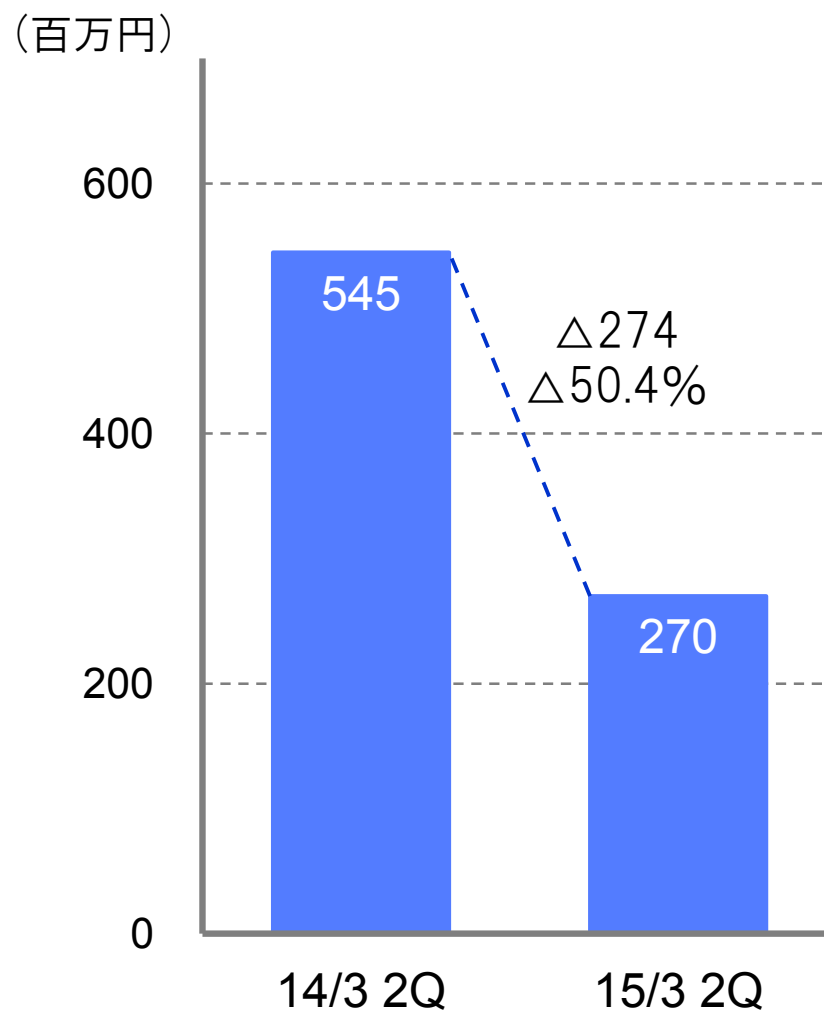
業績推移 ②：営業利益

営業利益： 270百万円

前年比： $\Delta 274$ 百万円
 $\Delta 50.4\%$

予想比： $\Delta 529$ 百万円
 $\Delta 66.2\%$

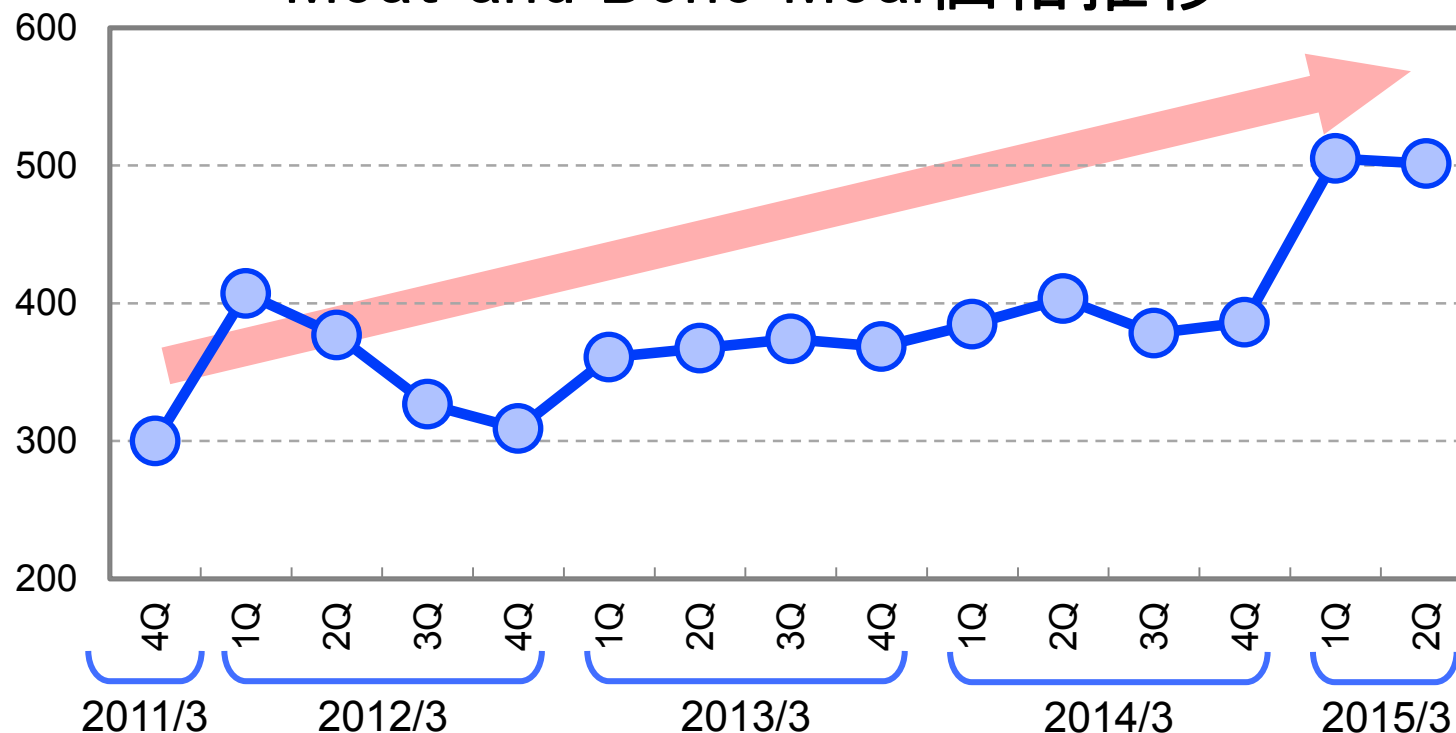
- 販売価格改定実施遅れ
- 原料価格上昇
- エネルギーコスト上昇
- 円安



減益要因 ①

海外原材料価格の上昇

(US\$/t) Meat and Bone Meal価格推移

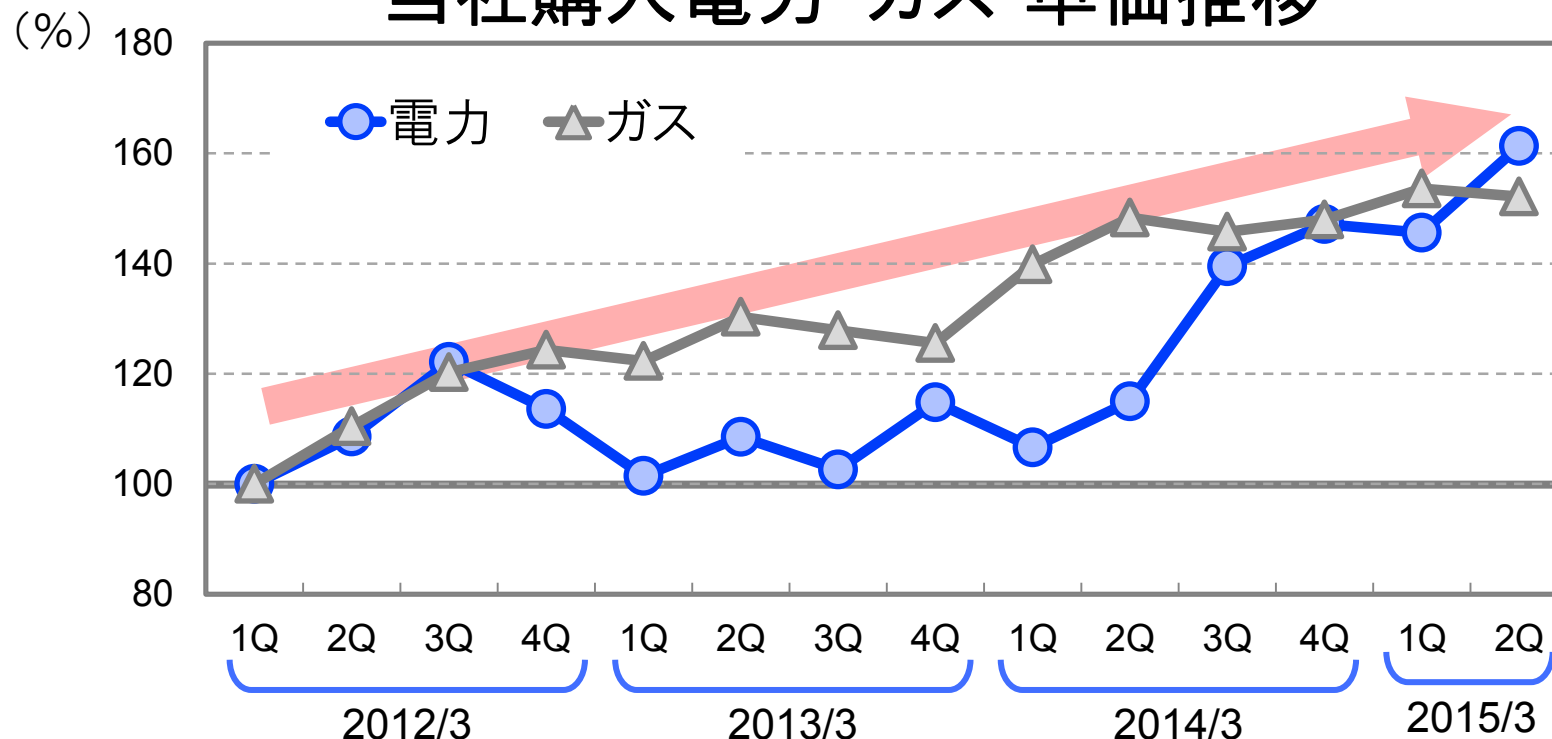


出展: Brian Gould, Agricultural and Applied Economicsデータを当社集計

減益要因 ②

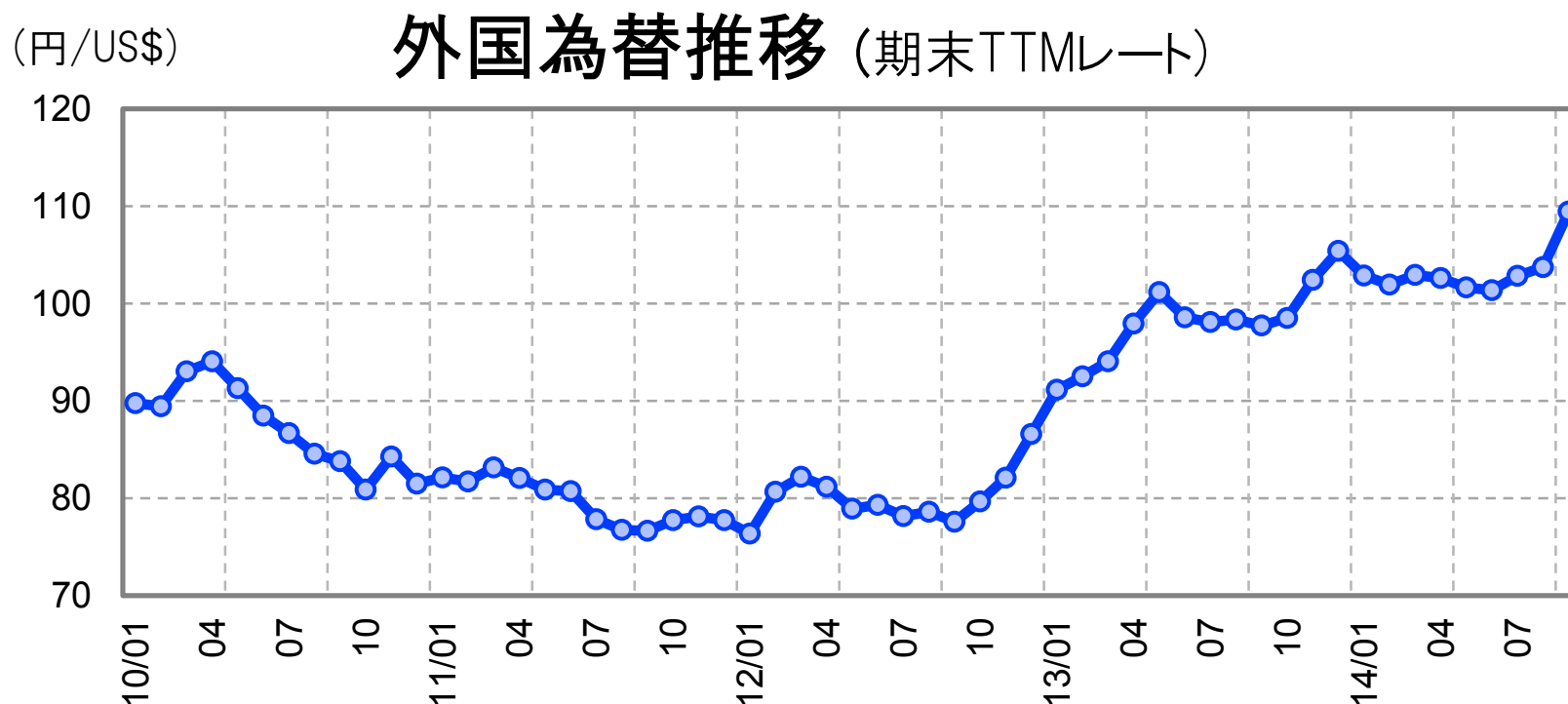
日本におけるエネルギーコストの上昇

当社購入電力・ガス 単価推移



減益要因 ③

円安による輸入仕入れコストの高止まり



業績推移 ③：經常利益

經常利益： 533百万円

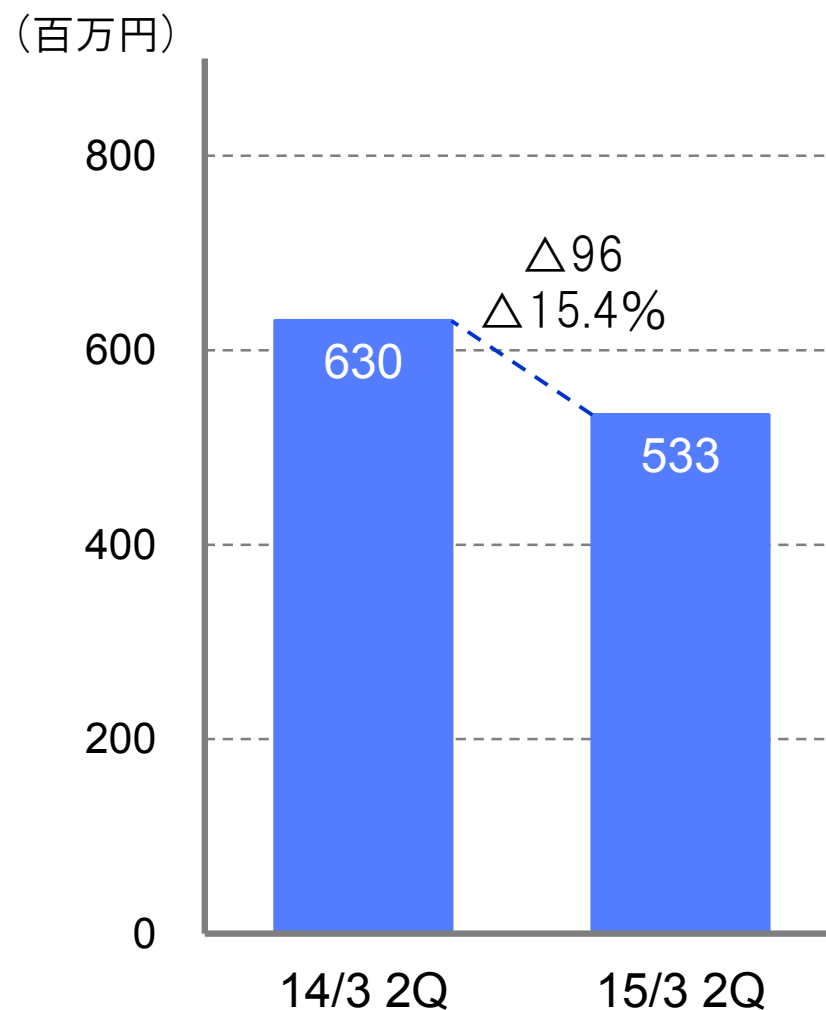
前年比： $\Delta 96$ 百万円

$\Delta 15.4\%$

予想比： $\Delta 266$ 百万円

$\Delta 33.3\%$

■ 為替差益増加



業績推移 ④：四半期純利益

四半期純利益：372百万円

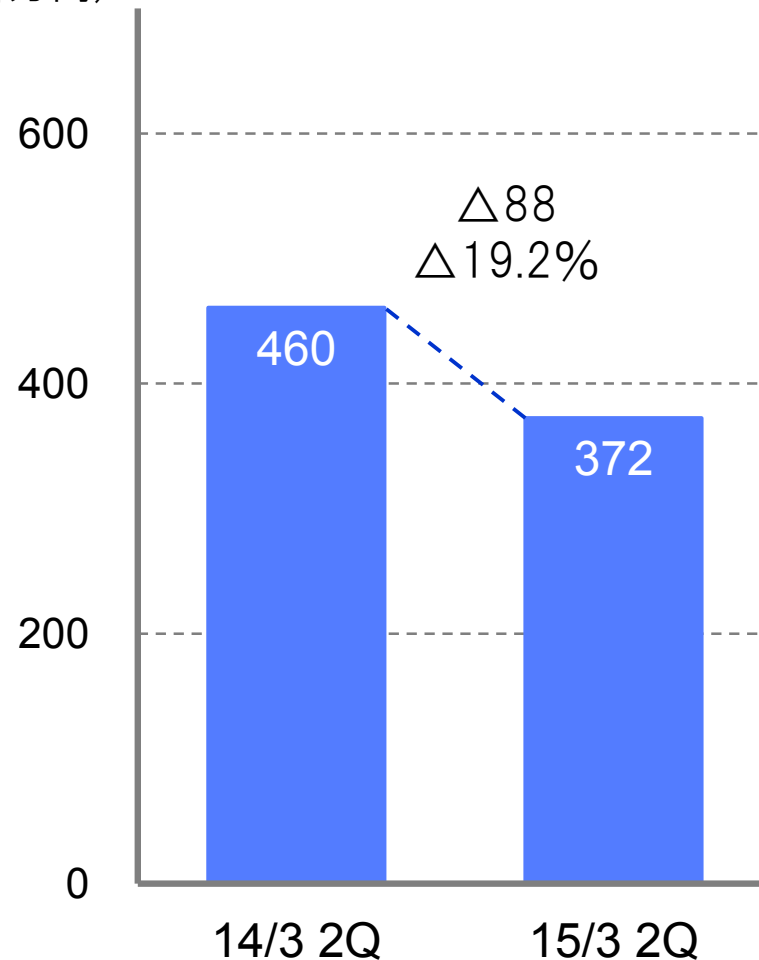
前年比： $\Delta 88$ 百万円

$\Delta 19.2\%$

予想比： $\Delta 127$ 百万円

$\Delta 25.5\%$

(百万円)



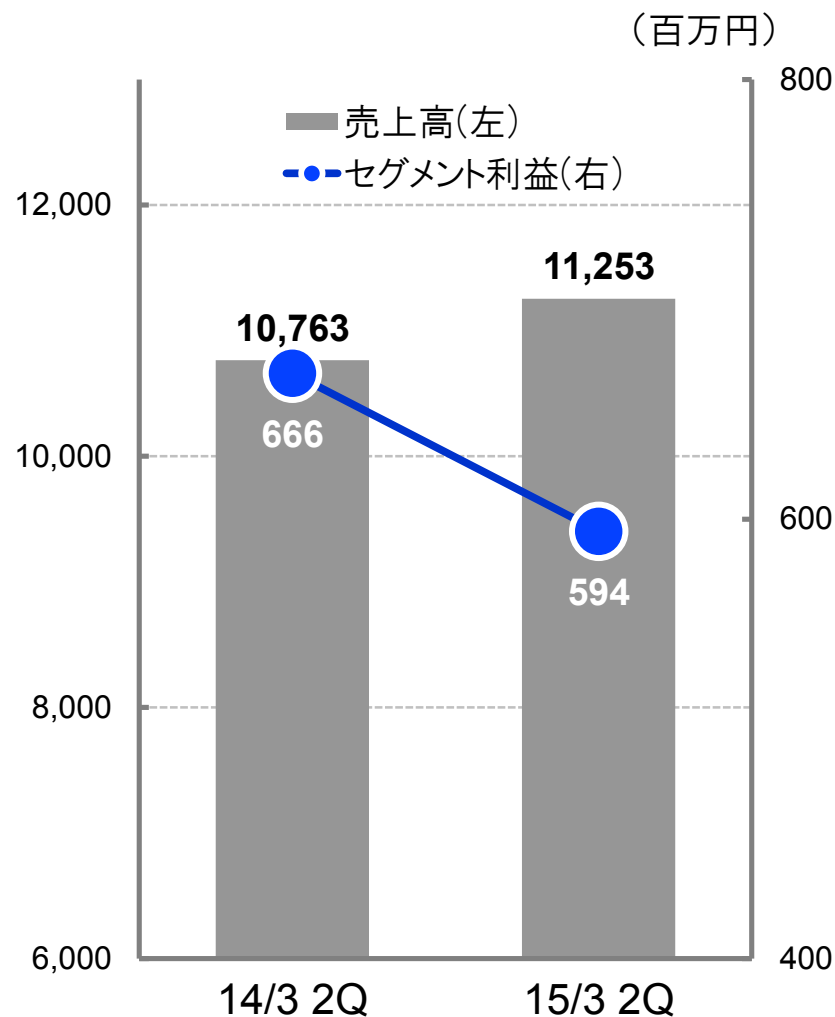
コラーゲン素材事業

売上高: 11,253百万円

前年比: +489百万円
+4.5%

セグメント利益: 594百万円

前年比: Δ 71百万円
 Δ 10.8%



コラーゲン素材事業 減益要因

- **ゼラチン** **日本** 価格改定実施時期遅れ
海外 カプセル市場軟化に伴う需要減
豚皮原料価格の上昇
- **ペプチド** 消費税増税反動による買い控え

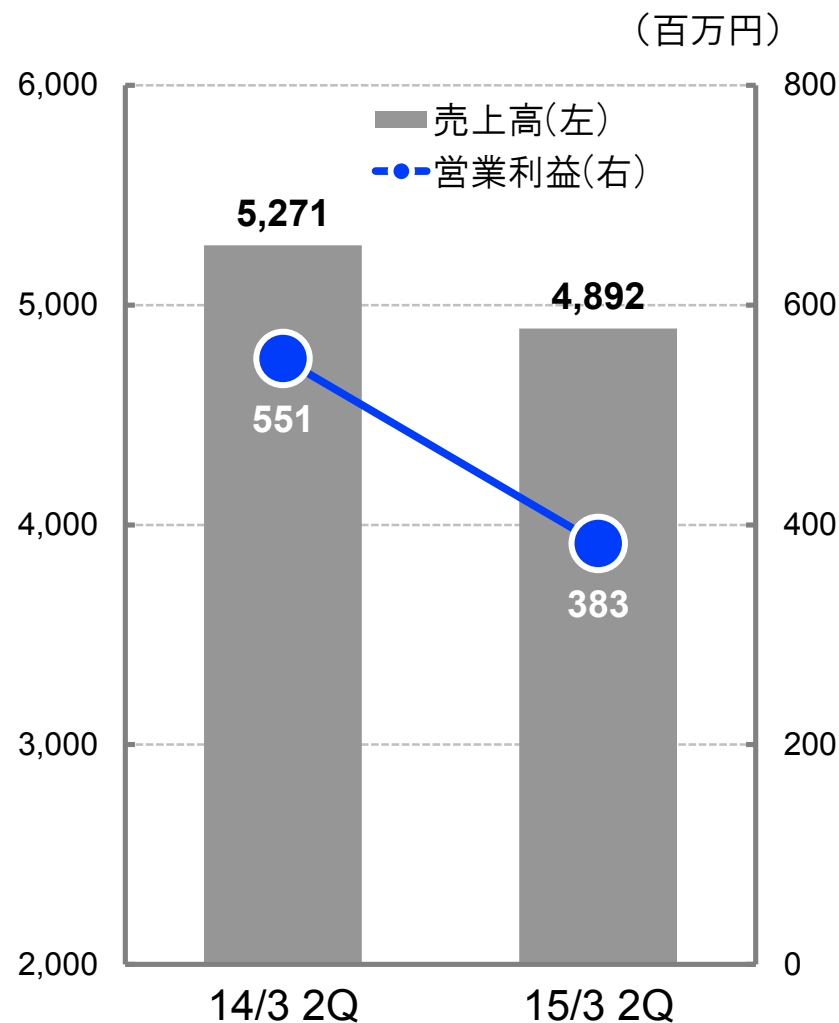
フォーミュラソリューション事業

売上高： 4,892百万円

前年比： $\Delta 378$ 百万円
 $\Delta 7.2\%$

セグメント利益： 383百万円

前年比： $\Delta 168$ 百万円
 $\Delta 30.5\%$



フォーミュラソリューション事業 減益要因

- **食品材料** 消費税増税に伴う需要減少
- **接着剤** 天候不順により包装用減少
シーリング材の採用遅れ

貸借対照表 (B/S)

- 有形固定資産取得により固定資産増加
- 株主資本、包括利益増加により純資産増加

(百万円)	2014/3	2015/3 2Q	増減
流動資産	18,685	18,146	△538
現金・預金	2,426	1,864	△561
受取手形・売掛金	8,164	7,380	△784
たな卸資産	7,642	8,332	+690
その他流動資産	452	569	+116
固定資産	12,704	14,570	+1,866
有形固定資産	8,804	10,286	+1,481
無形固定資産	50	58	+8
投資等	3,849	4,225	+376
資産合計	31,389	32,716	+1,327

(百万円)	2014/3	2015/3 2Q	増減
流動負債	10,080	10,210	+130
支払手形・買掛金	4,255	4,178	△76
短期借入金等	3,054	3,221	+166
その他流動負債	2,770	2,810	+40
固定負債	7,528	7,677	+148
長期借入金等	4,415	4,773	+357
退職給付引当金	2,561	2,386	△175
その他固定負債	550	517	△33
負債合計	17,608	17,888	+279
株主資本	14,734	15,296	+561
その他包括利益累計額合計	△1,097	△586	+511
少数株主持分	144	118	△25
純資産合計	13,781	14,828	+1,047
負債純資産合計	31,389	32,716	+1,327

キャッシュ・フロー計算書 (C/F)

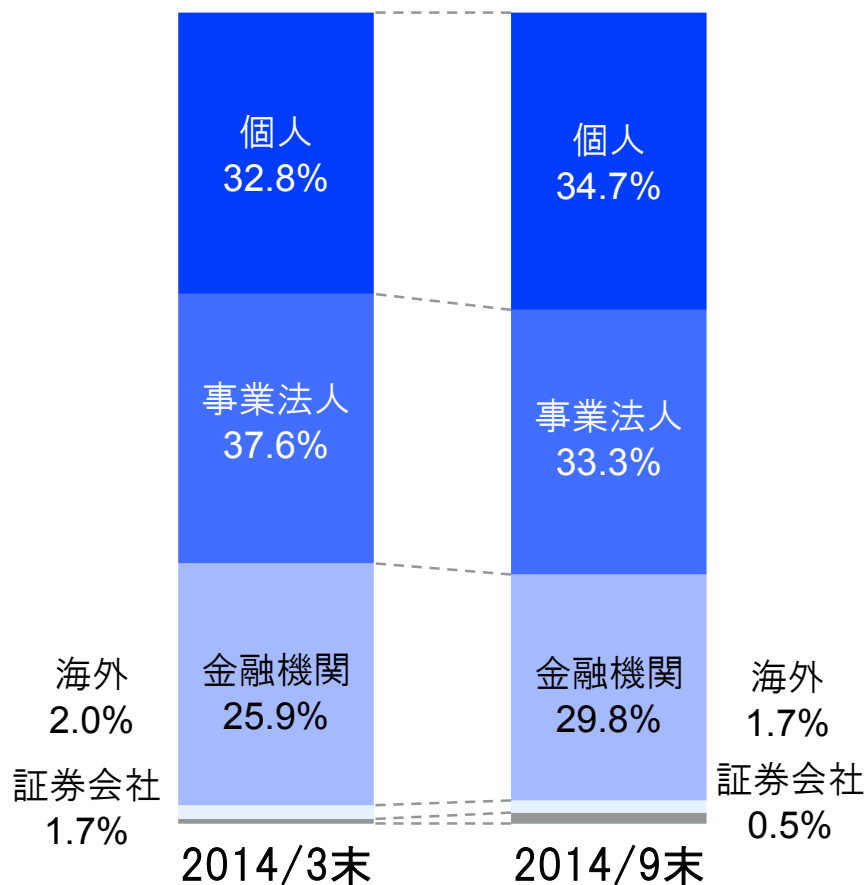
- 営業CF: 売掛金の債権譲渡による獲得
- 投資CF: 設備投資による使用
- 財務CF: 借入による獲得(去年は公募増資による獲得)

(百万円)	2014/3 2Q	2015/3 2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	△910	672
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,381	△1,460
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,645	197
現金及び現金同等品の増加額	396	△561
現金及び現金同等品の期末残高	2,655	1,844

株式分布変化

株式数

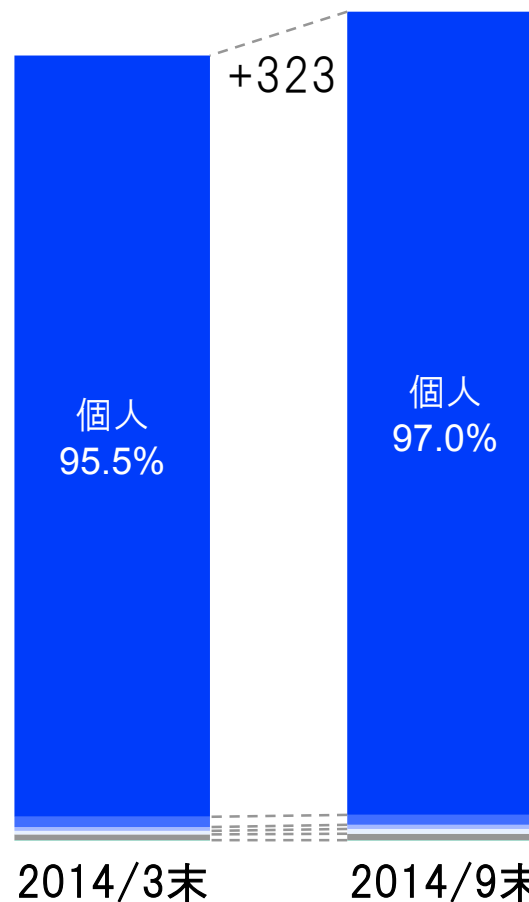
18,373千株



株主数

5,781名

6,104名



株主還元

<配当金>

2015年3月期	中間普通配	6円
	期末普通配	6円(予定)
	合計	12円(予定)

<株主優待制度>

今後も継続予定

実施内容

- 100株～500株未満：
1,000円相当の(自社商品用)お買物優待券
- 500株以上：
3,000円相当の自社商品(健康食品等)

3. 2015年3月期見通し

今後の見通し

部門	戦略課題	今後の見通し
ゼラチン	<ul style="list-style-type: none"> 国内価格是正終了 PEDによる豚皮原料不足 カプセル市場軟化 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる円安リスク PED沈静化、原材料は値下がり傾向 市場軟化による販売価格低下リスク
ペプチド	<ul style="list-style-type: none"> 米国工場 機能性の認知 	<ul style="list-style-type: none"> 12月より、日本向け販売予定 日本：肌＋ロコモ(骨、関節、筋肉) 中国、東南アジア：新市場創造
ケーシング	<ul style="list-style-type: none"> 生産効率化の設備導入 	<ul style="list-style-type: none"> 2015年より新生産設備による効果の出現
接着剤	<ul style="list-style-type: none"> シーリング材 	<ul style="list-style-type: none"> スマホ新機種への水平展開 新用途開発(スマートウォッチなど)

2015年3月期見通し

(百万円)		2014/3	2015/3 (当初計画)	2015/3 (修正計画)	計画比
売上高		32,814	36,500	32,400	△11.2%
営業利益		955	1,800	600	△66.7%
	利益率	2.9%	4.9%	1.9%	—
経常利益		1,115	1,900	700	△63.2%
	利益率	3.4%	5.2%	2.2%	—
当期純利益		665	1,200	500	△38.3%
	利益率	2.0%	3.3%	1.5%	—

設備投資

(百万円)	2014/3	2015/3 (計画)	2015/3 2Q (実績)	進捗率
設備投資額	2,949	3,000	1,665	56%
減価償却費	914	1,315	469	—

2015/3 2Q主要な設備投資の概要

(百万円)	投資額	投資効果(目標)
大阪工場新建屋、生産設備	433	シーリング事業拡大
北米ケーシング製造設備更新	186	生産性向上と品質向上
大阪工場ゼラチン製造設備更新	123	生産性向上と品質向上
その他	923	省エネ・生産性向上設備 医療用コラーゲン製造設備 等

4. トピックス

Nitta Gelatin India Ltd.における襲撃事件の件

1. 発生場所 Nitta Gelatin India Ltd.本社事務所
(インド、ケララ州)
2. 発生日時 2014年11月10日午前8時頃(現地時間)
3. 人的被害 なし
4. 物的被害 自動車、事務所扉、備品、パソコン等
(工場製造設備には被害なし)
5. 業績への影響 なし

接着剤事業新棟完成

AIC(Adhesive Innovation Center)



ベトナムゲル化剤製造工場完成

Nitta Gelatin Vietnam Co., Ltd.



コラーゲンペプチドシンポジウム開催

2014年10月29日
ベルサール九段(東京)



新田ゼラチン

エビデンス軸に世界市場へ

コラーゲンペプチドシンポジウム開催



竹宮 秀典部長



米井 嘉一教授

新田ゼラチンは10月29日、東京・千代田区のベルサール九段でコラーゲンペプチド(CP)の研究成果を発表する「Nitta CP シンポジウム2014」を行った。竹宮秀典執行役員ペプチド事業部長は「CPは消費

者の体感から健康素材の地位を確立、美容素材に利用され市場規模も01年から10年間で4000tに拡大した。一方、現在もCPの機能性が正しく理解されず、鈍化、C正しく理

市場を活性化する場合が必要だと考えた。国内では新表示制度による規制緩和で市場成長の可能性が議論されている。エビデンスを軸に新たな市場開拓、成長する世界市場に打って出たい」とあいさつした。

講演では武田猛グローバルニュートリショングループ代表が「機能化コラーゲンの関

よる市場変化を予し、新制度下でのCの機会として美肌、え「骨・関節・筋肉」など新分野での可能性を考察した。

その後、米井嘉一志社大学院生命科学研究所教授らに関して業界の第一

2014年11月7日 日本食糧新聞(9面)

網膜再生手術

網膜細胞の培養に、
当社コラーゲンを使用



2014年10月13日
読売新聞(大阪版朝刊16面)

先月12日、先端医療センター病院(神戸市)で実施されたiPS細胞(人工多能性幹細胞)を用いた世界初の移植手術から1か月がたった。患者の経過は良好で、今後1年間、経過を観察していく。

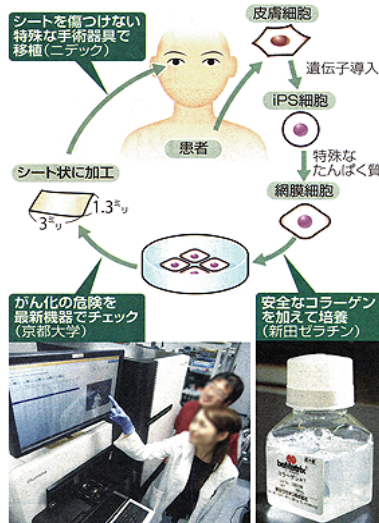
今回の移植が順調に進んだ背景には、当日の手術だけではなく、細胞の安全性や品質を様々な角度からチェックした国内の企業や研究機関の協力があった。(竹内芳朗)

■安全上の問題なし
手術を受けたのは、加齢に伴い、網膜の一部が損傷する「加齢黄斑変性」を患う兵庫県内の70歳代女性。

理化学研究所(神戸市)の高橋政代プロジェクトリーダー(53)が、女性の皮膚から作ったiPS細胞を網膜細胞に変化

iPS移植1か月

◆iPS細胞を利用した移植手術では、企業などによる安全性などのチェックが行われた



コラーゲンはゼラチンの元になるたんぱく質で、主に食品や化粧品などに用いられるが、細胞を増殖させる作用がある。原料を豚などから採取するため、ウイルスなどの有害物質が排除されず、培養細胞にも混入する恐れがある。動物実験に人への移植では混入は許されない。同社は4年前に理研から有害物質を含まないコラーゲンの開発を依頼された。

製造器具を250度の高温で熱して殺菌し、不純物の混入し

確保できない。京都大iPS細胞研究所(山中伸弥所長の渡辺亮助教39)らは、遺伝子を高速で読み取る最新機器「次世代シーケンサー」4台をフル稼働させ、網膜細胞などの遺伝子を全て解読。がん化の恐れがある変異の有無を調べた。

人の遺伝子は4種類の物質が約30億個並んでできている。普通の解読機器なら、すべて読み取るのに数か月かかるが、京大の機器は数日で正確に解読できる。

渡辺助教らは、機器で解析された膨大なデータを約1か月か

ゼラチン大手が培養材／京大遺伝子数日で解読／手術器具

さて、先端医療センター病院で右目に移植。女性は先月18日に退院した。

手術は、長期間にわたる安全性の確認が目的で、大幅な視力

今回、網膜細胞を安全に増や

回復といった結果はすぐ出ないが、現時点では、患者の右目に安全上の問題は起きていないという。

す役目を担ったのが、ゼラチン製造では国内最大手の「新田ゼラチン」(大阪府八尾市)。細胞培養用のコラーゲンを作製した。

■最新機器フル稼働
細胞の安全性はこれだけでは

「世界初」支えた技術

ない清潔な空間で作業するなど、100近い社歴で培った技術を駆使。約1年間かけて、有害物質が限りなくゼロに近く、網膜細胞を高効率で増やせる試薬を完成させた。

同社の平岡陽介(ライフサイエンス室長42)は「患者さんの安全に少しでも役立てたのなら、栄」と語る。

● 機能性表示規制緩和

- コラーゲンペプチド販売強化による収益改善

● BSE規制緩和

- 牛骨ゼラチンの国内販売強化による収益改善

ご清聴ありがとうございました



新田ゼンチュ株式会社